

---

# 大海賊時代に転生！

でんへん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大海賊時代に転生！

### 【Nコード】

N7732X

### 【作者名】

でんへん

### 【あらすじ】

この小説は  
転生ものです。

ワンピースの世界で生きていく少年の話です。

自分が作ったうちはイタチ in one piece という作品に  
類似した表現がみられます。

転生ものです。

題名通りです。

興味のある方は是非。

初心者ですのでお手柔らかに（笑）

車に引かれそうな子どもを助けて死んだ根は優しい男が

ワンピースの世界に転生します。

原作崩壊の可能性なきにしもあらず（笑）

それでも構わないよ、って方はどうぞ。

作者は受験生なので更新はできたりできなかつたりだと思えます。

受験が終わったらいハイペース更新ができると思っんですけど。

それとストーリーがあるサイトの小説と同じですがそれは僕のサイトです。

主人公を変えた小説が書きたかったため、このサイトで小説を書くことにしました。

以上です。

**題名通りです。**

この作品は現代を生きていた青年が

一度死に、ワンピースの世界に転生し生きていくという物語です。

主人公の性格は呼んでいく内に分かって行くと思います。

5

このような小説が好きではないという方は、

ご遠慮下さい。

また、作者は受験生です。

更新はマイペースになります。

一気に更新したり少しずつしたりするので。

また、

初心者ですので

皆様の気分を悪くさせることもあると思いますので、

その時は指摘してください。

以上です。

前書きが少し長くなりましたが、始まります。

## プロローグ

オレの名前は斎藤 結城だ（ これだけはマジ（笑）です）。

どこの持ってるハンカチ王子とは違い、

持っていないオレは子どもを庇って普通に死んだ。

名前も知らない子どものために死んだことはとやかく言っても仕方ない。

ただ天国か地獄かどっちかにしてくれ。

今オレは一面真っ白な所にいる。

「ここが地獄か？」

特に罪を犯した記憶はないんだけど……。」

神「お前を転生させたい。」

「?!?!?」

びっくりした〜。」

神「もう一度言っ。お前を転生させたい。」

「やだ。」

神「え?」

「だからやだ。」

神「生き帰りたくないのか?」

「天国に行きたい。」

神「見ず知らずの子どもを助けるぐらい優しい者だから

違う世界で生きていってほしいと思ったのじゃが……。」

「じゃあ一緒に来て。」

神「は？ 何を言っておるのじゃ、妾は神だぞ。」

「お姉さん綺麗だから。」

目の前の自称神は確かに美しい女性であった。

「？ぶ、無礼な!!」

それに妾に逆らうなど言語道断!!

転生決定じゃ!!」

「え！？ ちょっと待」

シュン！！

主人公は消えてしまった。

神「しまった。

あの世界であの者は生きていけん。

力を授けておこう。」

「ここは!?(前書き)」

主人公が

転生します。

「ご都合主義なところがありますが、

そこは目をつぶってください」(笑)

「ここは!？」

【主人公】

目を覚ました。

天井に穴があいてるから、落ちてきたんだと思う。

「おい!! 目を開けよ!!」

「……………すみません。

突然お邪魔しまして。」

つかここ暗くない!？」

「そんなことよりお前はどこから来たのじゃ!？」

「ここは子どものも来て良い場所ではない。」

このしゃべり方は…………

「……………あ……………」

周りを見渡すと皆さん同じ首輪をしておられる。  
神様に変なこと言わなきゃ良かった；

よりによって目の前の奴隷の牢屋かよ。

他の転生する小説ってみんなもうちょっと良い環境じゃなかった？

生きかえって、また死ぬのかオレ（笑）

「妾の話を聞いておるのか!？」

「……………年、いくつ?」

「わ、妾か!？ 16じゃがなぜそんなことを聞くのじゃ?」

「……………」

涙が出てきた。

奴隷解放の年じゃん。

……………ん?

手がちいさい……………オレ大学生立っただけだ……………。

「何で泣いてるの？」

オレが子どもだから優しく聞いてきた。

「……オレさ、いくつに見える？..」

こんなことを聞いてる場合じゃないのは分かってるけど、**ここ密室**だし、外から声も聞こえない。

「……妻より年下に見えるぞ？」

自分で手を見てもそう思う。

「……つかぬことをお聞きしますが、あんたたち何してんの？」

オレはそこに居る人たち全員に向けてそう聞いた。

「「「「「(てめえだよ!!)」「」「」「」

みんなが思ってることが何となくわかった。

「名前はまた会ったら教えるよ。  
年はわからん。何でここに居るかもわからん。助けてくれ。」

空気が凍ったのがわかった。

「……………私たちは奴隷として、天竜人に捕まっているのよ。  
それは無理。」

ですよね；

「その本は何じゃ？」

本？

「これオレの？」

「それを持って落ちてきたぞ。」

今は天竜人は外出中じゃが、もしそうじゃなかったらお前は死んで  
おったぞ。」

……………まずいな。

「……………この本はオレのか。」本を開けると、紙が挟んであり、

そこには、

身体能力の向上とnarutoの世界の力が扱えると書いてあった。

幸運を祈るとも書いてあった。嘘付け。

ならもつとマシな所に落とせ。

「……………とりあえず、天竜人はいつ帰ってくるの？」

そう聞くと、今日の夜らしいのでオレは落ちてきた所から出た。

「……………近いうちにまたくる。」

オレはそう言った後にそこを去った。

オレは島の人氣が少ないところに隠れ、  
フィッシャータイガーが奴隷解放のため、襲撃してくるまで、ひたすら修行を重ねた。

約3ヶ月でオレは体術はあまり上達しなかったが、

忍術とチャクラコントロールがそれなりに上達した。

生死が関わると人はいつも以上の力を発揮するのは本当だと思った。

チャクラコントロールができるおかげで、移動速度は格段に上がった。  
た。

これで奴隷のみんなを助けられる確率は増した。

使える忍術は3つ

影分身

火遁 豪火球の術

霧隠れの術

の三つに絞った。

奴隷の人たちを助けるために必要なものだけをひたすら鍛えた。

逃げ切れれば良い。

他の忍術はその後だ。

そして1日の修行を終え、木の実を加熱して食べていると、大きな爆発が起こった。

奴隷解放です。

【外】

「……………まず、名前だな。」

カムイ。

カムイにしよ。格好いい。」

主人公はカムイと名乗ることにした。

両親はいないため、元の名前にこだわりはなかった。

カムイはまず顔を隠した。

10歳程度の年齢で賞金首というのは死んでも避けたかった。

そして足にチャクラを集中し、加速、フィッシャータイガーを探すのに専念した。

カムイは暫く走り回ると、フィッシャータイガーを見つけ出した。

最初は怪しまれたが、  
船の場所を教えてくれたため、  
ハンコックたちがいる  
屋敷へと向かった。

「せーのっ!!!」

カムイは壁を思いつきり破壊して牢屋に穴を空けた。

「助けにきましたよ。」

そう言うと、  
ハンコックたちが反応した。

「その声はあの時の子どもか？」

「当たり前。」

とりあえず話は後、  
みんな集まって。  
ここから逃げるよ。」

カムイがそう言うと他の奴隷たちも集まってきた。

「……………まずは

忍法 霧隠れの術」

カムイが印を組むと濃密な霧が立ち込めた。

「これはお主がやったのか？」

「うん。」

ちよっと待ってて。  
多重影分身の術！…！」

カムイは大量の影分身を作り、皆を抱き上げ船へ向かった。

他の影分身は海軍が来たときの囷として散らばった。

顔は隠しているため、本体が倒されない限り安心だ。

「……………ごめんな、

すぐこれなくて。」

カムイはハンコックを横抱きにしながら謝った。

「……………お主は助けに来てくれた。

それで十分じゃ。

それよりその顔に巻いている布を取れ。  
顔が見えん。」

「……………もう大丈夫か。  
いいよ。」

「……………う、うむ〃〃。」  
顔を出したせいか

助けてもらったせいか、横抱きにしたせいか、顔を赤らめるハンコック。

「あんたの名前は？」

「ボア・ハンコックじゃ。」

「ハンコックか、もうちょっと我慢してて。」

ハンコックは頷いた。

カムイはスピードを上げ、タイガーに言われた場所に向かい、全員を船にのせた。

「……………任務完了ってやつか。」

「疲れた〜。」

カムイは船をだした後、緊張の糸が途切れたためか、意識を失った

カムイが目を覚ますと、ベッドに寝ていて隣にはハンコックがいた。

「起きたのか!？」

「……………ここはどこなんだ?」

「ここはシャッキーという人が営んでおる店じゃ。

匿ってもらっておる。

カムイは2日間寝たままじゃった。」

「(どんだけビビってたんだオレ…)

そうなのか。

ハンコックが看ててくれたのか?」

「今、ハンコックと””」

……………嘘うそだろ?

ルフィに惚れるんじゃないのか?

試しにもう一度

「……ハンコック？」

「…また、名前を…」

マジでか。

とりあえず旅立っていったハンコックは置いていて、シャッキーとかに挨拶しに行こう。

部屋を出るときに結婚とか聞こえてきたのは、気のせいだと思いたい。

だってオレそんなにすげえ人間じゃねえし、

緊張しすぎて倒れるぐらいの雑魚なのに。

釣り合わなくね？

「おはようございます。」

「あらカムイちゃんおはよう。」

「（カムイちゃん…）……  
シャッキーさんですよね？」

助けてくれてありがとうございます。」

「あなた達を助けたのはレイリーよ。レイリーにお礼を言ってあげて。」

「私がレイリーだ。  
お礼を言ってくれ。」

言いたくね〜……

でも、レイリーってあのレイリーだよな？

オレ、レイリーとルフィが 修行するところまでしか原作知らねえけど。

これはチャンス!!

「お願いします!!」

オレに修行をつけてください!!」

オレは我を忘れて土下座していた。

「……………ほっ。」

他の皆も静かになっていた。

「もっと強くなりたい。」

この前だってハンコックたちを連れて逃げるしかなかった!!

守りたいものを守れるようになりたい!!

「……………いいだろう。」

私の修行は厳しいぞ?」

やった!!と思った所でハンコックが入ってきた。

「ダメじゃ!! 妾と共にアマゾンリリーにくるのじゃ!!」

「……………え?」

「……………姉様?」

「妾を放っていくのか?」

ちよっと人聞きのわるいこと言わないで……;

「ちよっと待って。ハンコック。」

オレはハンコックの説得を始めた。

オレはあの後

ハンコックの説得にあたった。

ハンコックが皇帝になって、

オレもレイリーの修行が終わったら必ず行くと言った。

ハンコックを悲しませたら許さない、とサンダーソニアとマリィゴ  
ールドにも言われた。

まだ告白されてもないし、してもいないけど……

まあハンコックがいいんなら良いんだけどね；

正直見たことないぐらい美人で、

オレには釣り合わないくらいだから、嬉しい気持ちはあったが顔に  
は出さないよう努めた。

レイリーとシャッキーのニヤニヤした顔にはイラッとしたけど。

## 修行の三年間（前書き）

原作が始まるまでは割と

展開が早いです。

## 修行の三年間

修行はハンコックたちがアマゾンリリーに帰ってから始まった。

修行する前にあらかじめ、

忍術をつかえること（本を見せた）  
を伝えた。

忍術は自分でモノにしなさいと言われた。

### 【外】

一日目

「まずは体を鍛えよう。」

何事も基礎となる体が大事だ。」

「わかりました師匠。」

「いい返事だ。」

腕立て伏せ1000回

腹筋1000回背筋………」

「（筋トレ……）」

「今言った各種鍛錬が終わったら

走り込みだこの島を50回回ってきなさい。

日が暮れる頃に迎えにくる。

サボるなよ。」

「分かりました師匠！」

レイリーは楽しそうな顔をして帰っていった。

「やるしかねえ……。」

カムイは言われた通りに筋トレを始めた。

全て終わる頃にはカムイは指一本動かなかった。

180日目

すでに三倍になった筋トレ

終わるとともにレイリーが現れ、組み手をすると言われるカムイ。

案の定ボロボロにやられ、意識はフェードアウト。

一年がたったある日。

筋トレも終わり、組み手も終わったあと、カムイは立っていた。

「すごい。

俺強くなってる。

忍術の修行も上手くいつてるし、師匠にも勝てるかも」

「さあ組み手パート2だ。」

ニコニコ笑うレイリー。

覇気を使ってカムイに襲いかかり。

そのままカムイの意識はフェードアウト。

修行一年と半年が過ぎたある日。

「今日はカムイの誕生日だったな。

特別に本気でやってやろう。」

ニヤニヤ笑うレイリー

「じゃあオレも本気でいくよ師匠。」

ニヤニヤ笑うカムイ

似てきた2人。

意気込むが結局はボコボコにやられ意識はフェードアウト。

目を覚ますと、誕生日を祝うカードと

新しい戦闘服が置いてあった。

「師匠ー！！シャッキー！！！！」

カムイは年相応の顔をして2人のところへ走った。

修行を始めて2年、

ハンコックが王下七武海に加入した。

「もっと強くならなきゃな。」

「そうだなカムイ。もっと厳しい修行にしないとな。」

「頑張つてねカムイ。」

「え………」

修行を始めて、2年と半年。

「覇気も大体扱えるようになったな。」

今日からは忍術も使つて構わない。

本にあったたくさんの忍術を扱うより、  
絞つて特化した方がいい。」

「分かった。」

いつの間にか、敬語が抜けているカムイ。

笑いがレイリーそっくりになったが本人たちは気づいていない。

## 修行三年目

「私が教えられることは教えただよ。

あとは自分で磨いていったらいい。

大人しく女々ヶ島にいるような性格じゃないだろ?」

「そうだね。アマゾンリリーには避雷針の術を使えばいつでも行けるしね。」

カムイは旅に出るつもりなので、避雷針の術を会得した。

しかし避雷針の術を使うためのクナイは量産できないので、戦闘には使わないつもりだった。

「そうだったな。

それでは最後の組み手だ。

「ん。分かった。」

2人は構えた。

「うおおおお!!」

最後はレイリーも全力だった。

久しぶりにカムイの意識はフェードアウトした。

「（強くなったな、カムイ……）。」

## 主人公設定（前書き）

どろろんゝ（ーー）ゝ

ヒロインをハンコックにしてくと、ありましたので、そうします。

## 主人公設定

名前

カムイ

シンと名乗っていましたがミスです。  
消し方が分からなくて；；  
ややこしくなってますいません。

年齢

ハンコックの五つ下。

13歳（修行が始まった時）

誕生日

9月6日

能力

n a r u t o の世界の忍術

火遁 風遁に特化。

水遁は使えない。

雷遁 土遁は苦手。

チャクラは多い。

原作開始時はかなり多い。

血継限界なし。

武装色の覇気 使える。 見聞色の覇気 使える  
覇気色の覇気 使える

容姿

茶色の髪

顔 悪くない。

男らしい顔つき。

修行後レイリーに表情が似てきた（シャッキー談）

身長は原作開始時 195cm 服装 黒を基調とした服。

性格

面倒なことには巻き込まれたくないタイプ

しかし困ってる人がいると見て見ぬフリができない不器用な性格。

修行を終え、やや戦闘狂ぎみ。

夢は麦わらの一味に入りワンピースを見ること（ハンコックに土下座して頼み込むつもり）

生い立ち

事故死（知らない子どもを庇った）

親はいない。

孤児院育ちでバイトで稼いだ自費で大学に行くほど

新しい知識を得るのが好きだった。

ちなみに文学部歴史学科。

そのためワンピースの空白の歴史にも興味をもっている。

死んだことに対しては

割り切っている。

## アマゾンリリース（前書き）

原作開始まで展開はやいままです。

## アマゾンレリーへ

ここはシャツキー・Sぼったくりバー。

旅立った弟子を見送った後、

レイリーは酒を飲んでシャツキーと話していた。

「……………行っちゃったわね。」

「弟子は旅立つものだから仕方ないさ。」

「……………これ、カムの使ってたベッドの上に置いてあったわよ。」

シャツキーは一枚の手紙を見せ、

レイリーはそれを受け取ると中身をみた。

~~~~~

シャツキーと

師匠へ

お世話になりました。

面と向かって感謝を言えるほど素直じゃないので、紙に書きました。

師匠の修行は

すごく大変でした。

オレが失敗したのを見て爆笑している師匠の姿を見て、いつかぶっ飛ばしてやるって思っていました。今でも思っています。

それでも

師匠もシャツキーもすごく優しくて、

親のいないオレにとっては、

毎日けがの手当をしてくれて、  
オレの話を聞いてくれて、旨い飯を作って待っていてくれるシャツキーを見て、

母親ってこんな感じなのかなって思っていました。

師匠も

いつも厳しい修行をして、  
オレの失敗を心待ちにしているような顔をしていたけど、

修行で気を失って

おぶってもらって帰った時とか、  
飯の時にオレに色んな話をしてくれる時に、

父親ってこんな感じなのかなあって思っていました。

オレはしばらく帰らないけど、

帰った時には面白い話が出るように、頑張ってください。

その時はシャッキーの旨い飯楽しみにしてます。

師匠はぶっ飛ばすから首洗って待っててください。

~~~~~

「私これ読んだときちょっと泣いちゃったわ。」

「……………泣くところなんてなかったぞ。」

今度帰ってきたらボコボコにしてやる。」

「……………涙流してそんなこと言っただって格好悪いわよ。」

レイリーは返事をしない。

「……………父親が、」

こっちの台詞だバカ弟子。

息子のように考えてたのはオレの方だ……………。」

シャッキーはレイリーの考えていることが分かっているようだった。

「（……………そっくりだったものね？人は。）」

カムイは初めは歩いてアマゾンリリーに向かっていたが襲ってきた海王類を霸王色の覇気で黙らせた後、海王類にアマゾンリリーまで運んでもらっていた。

ハンコックたちには事前に伝えたため、島の港に迎えに来てくれる手筈だ。

カムイを認めないと言う人たちと闘技場で戦わなければいけないと言ったことも聞かされている。

カムイの現在の服装は黒を基調とした戦闘服に藍色のマントを羽織っていた。

どことなくビビリ気味だった三年前とはちがい、

落ち着いた顔つきだった。

「……………おっ、そろそろ見えてきた。」

カムイは海王類に乗ってままたマゾンリリーに到着した。

ハンコックたちはカムイに気づいたようだ。

「あれはカムイじゃありませんか？姉様。」

サンダーソニアがそういうとハンコックが走ってきた。

「どこじゃ!？」

カムイは……………何かに乗っておるようじゃな。」

「あれは海王類ですよ姉様!！」

アマゾンリリーに住む女たちも気になって見ていた。

やがてカムイは港についた。

「……………久しぶり。」

三年ぶりだねハンコック、サンダーソニア、マリーゴールド。

……………どうかした？」

「……………その海王類は何じゃ？」

妹たちも大きく頷いている。

島の女性たちは茫然としていたり息をのんでいたり様々だ。

いずれにしてもバカでかい海王類のせいで静まり返っているのは確かだ。

「ああ、こいつ？」

ここに来る時は小船だったんだけど、襲いかかってきたから…

ペットにした。」

「……えーーーーー!!」

「名前はタマ。」

「……えーーーーー!!」

見に来ていた人たちがざわめき始めた。

「（息ぴったりだな）（笑）、

こういう所はワンピースっぽいな）

ありがとな。

タマはこの島の近くに居てくれ。」

タマは海の中へ消えた。

「……………よく来たなカムイ。  
待っておったぞ。」

ハンコックは気を落ち着けた後、そう言った。

「お出迎えご苦労さん。」

カムイと3姉妹は色々と話しながらハンコックの住む宮殿に向かった。

宮殿に向かっているときに

「……………あれが男よ」

「男って海王類をペットにするの？」

「すごい……………」

と言っている女性たちがいた。

「（そうじゃないんだけどなあ……………」

聞こえていたカムイは苦笑いをしていた。

場所は闘技場、

その中心にカムイは立っていた。

「やっちゃえー！！！」

「男なんて殺しちゃえー！！！」

「（すごいアウェイ）」

カムイの前には8人の女戦士がいた。

「……………あんだ達8人に買ったなら認めてくれるってことだよね。」

「……………そついでいじつと。」

まあ、そんなことは無理よ。」

「……………大丈夫かの…。」

「姉様、男が島に居ることを認めさせるには  
これしかありません。」

「しかし…………。」

「大丈夫ですよ、カムイならきつと…………。」

「う、うむ。」

3 姉妹、特にハンコックは気が気でない様子だ。

「……………そろそろやるつか。」

「行くわよみんな!!」

8人は一斉に襲いかかって来た。

「……………面倒だな。」

カムイはそう呟くと、

8人を睨みつけ霸王色の覇気を無差別に解放した。

ドンッ!!!

カムイが見回すと意識が残っていたのは

3姉妹を含めても数えられる程度だった。

「……………姉様……………」

「……………霸王色……………」

「……………すっい。」

「これが修行の成果……………」

3 姉妹もカムの成長に驚愕していた。

「……………合格？」

闘技場の中心には  
嬉しそうに笑うカムの姿があった。

## 幸福な時間（前書き）

カムイ君からメールでの質問への回答があります（笑）

## 幸福な時間

【カムイ】

ご機嫌よう。

顔を隠していたおかげで賞金首になってないカムイだ。

作者宛てにメールで

カムイはどれくらいの原作知識を持っているかと聞かれたので、

俺自ら答えてやる。

正直に言うと完璧に覚えてるのは  
クロコダイルがルフィに負けるところまでだ。

なぜレイリーとハンコックを知っているのか？って？

Wikipediaだよ。

登場人物一覧ってあるだろ？

そこでレイリーとかハンコックのことは知ったんだ。

特にハンコックのことは細かく覚えてる。

天竜人が死ぬほど嫌いだからだ。

フィッシャータイガーのマリージョア襲撃の時のことはWikipediaで何度も見た。

そういうわけでオレはハンコックの年齢を聞いたんだ。

だからストーリーはアラバスタ以降はよく分かん。

ただ空島に関しては敵の名前を見たら、どんな力を持っているかぐらいならは思い出せる。

エネルとかな。

それ以降はややこしくなって分からなくなったから読むのをやめた。

これに関しては作者も同じらしく、空島からは単行本を買いつつ進めていくそうだ。

以上で質問の回答は終わりだ。

またこんな感じで回答をオレがすることでことになるでしょー。

その時はまたよろしくね。

それじゃ本編に入りますよー。

アマゾンリリーの皆は歓迎ムード一色。

ここでは強いものが

尊敬を集めるらしい。

「……………（でも体を引つ張るのは……………仕方ないか。この人たちは男を知らないらしいし。）」

ハンコック？」

カムイは食事中に揉みくちやにされた後、ハンコックの部屋でのんびり話していた。

「……………ハンコック。」

「……………どうしたのじゃ。」

カムイとハンコックはソファーに座っていたが、ハンコックはカムイの顔を見ようとしない。

「……………あんまり話してやれなくてごめんな。」

「……………そなたが歓迎されておるのじゃから、これほど嬉しいことはない。」

「……………じゃあなんで拗ねてんの？」

「妾もカムイと話したかっただけじゃ。」

「……今は2人なんだから何か話そうよ。」

「……………う、うむ。」

ハンコックは2人ということに照れて顔を赤らめた。

「（クソ可愛い……………）」

……………ん＝」

「……………ん？ カムイも照れておるのか？」

「まあ……………ハンコック美人だし＝」

「……………そうか＝」

2人して顔を赤らめる今時ジャンプでも見られない中2つぷりを見せる男女。

それをマリーゴールドとサンダーソニアはドアの向いっつから聞いていた。

「……………何アレ。」

「……………姉様は仕方ないとして、カムイまで……」

盗み聞きをしていた2人は

進展しそうでない姉と命の恩人に呆れ、

自室へ帰っていった。

幸福な日々（前書き）

展開が変わらず早いです。

## 幸福な日々

カムイがアマゾンリリーに来て2年

ハンコックは20歳

カムイは16歳

2人は2年という長い時間をかけて

親密になっていった2人

その親密になるスピードの遅さは

妹たちやニヨン婆をイライラさせるもので、婚約を決めた時は当事者より喜んでいた。

当の2人は幸せな毎日を暮らしていた。

「おはよう、ハンコック。」

「うむ〃〃」

ハンコックは妄想を始めることはなくなったが、相変わらずのベタぼれで、

反対にカムイは長い時間をかけて、ヘタレから変態ドSに変身していた。

「同じベッドで寝てから、

朝、顔が赤くならないところ見たことないな。」

「……………朝は慣れぬ」

「……………いただきます。」

「!?ま、待つんじゃない!?!」

「無理だな」

朝目覚めたときのハンコックの可愛らしさに

朝からシてしまうことは日常茶飯事であった。

一度、2人きりじゃなくなると、

立場は逆転。

修行と戦闘と歴史の勉強以外にあまりやる気のないカムイに、ハンコックは甲斐甲斐しく世話を焼いていた。

#### 朝食時

「カムイ、ご飯がこぼれ落ちておるぞ。」

「(運動し過ぎて眠い……………)」

うん。」

隣に居るハンコックは  
こぼれたご飯を拾い、  
顔についたものも拭いてあげる。

「……………ありがとう。」

「うむ。かまわぬぞ。」

「いつ見ても信じられにゃい光景じゃ……………」

「姉様とは思えない……………」

「カムイにだけはああなのよね。」

「カムイ様カワイイ」

「朝のカムイ様は毎回ああよね」

### カムイ修行時

「……………疲れた。」

カムイがそのまま地面で横になっていると、

一緒修行していたマーガレットが寄ってきた。

マーガレットとは年も離れていないため、仲良くなった。  
ハンコック公認である。

「カムイ。蛇姫様から手紙だよ。」

カムイが見ると

修行が終わったら風呂に入ること  
着替えはベッドの上にあること  
と書いてあった。

「……………なんか母親みたいだな。」

「カムイは自分のことに無頓着だからって言ってたよ。」

「否定はしない。」

「それと、お風呂入った後にカムイがうるちよろしないように見張  
って起きなさいって言われた。」

「了解；（知らない物があつたら気になって見に行ってるだけなの  
に…………。）」

こんな感じで

日中と日没後に立場が逆転する2人であった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7732x/>

---

大海賊時代に転生！

2011年10月22日03時18分発行